

【高等学校用】

令和2年度学校評価 結果

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀県立致遠館高等学校
-----	-------------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・中高一貫校として6年間を見通した教育や進路指導について目標を持って取り組むことができた。SSHとして指定を受け、普通科・理数科とも外部機関との連携をとりながら、充実した探究活動を行うことができた。働き方改革の一環として、業務改革をすすめ、一昨年に比べて大きく時間外労働を減らすことができた。 ・次年度への課題としては、生徒が主体的に学ぶ意欲や姿勢を育成するために、自主学習を定着させるための指導体制の構築と生徒の意識改革に努めるとともに、更なる教科指導力の向上を図っていく必要がある。また、働き方改革をさらにすすめるために、部活動や学校行事など学校業務の負担軽減を図り、時間外勤務の縮減と働きやすい職場づくりをめざす必要がある。
---------------	--

2 学校教育目標	世界の中の日本人として、未来社会の文化の創造と発展に力をつくす、豊かな人間性と進取の気性に富む若人を育てる。
----------	--

3 本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> ①「知・徳・体」のバランスをとりながら、生徒の生きる力（自ら判断し、行動する力・困難に打ち勝つ力）を醸成する。 ②生徒が学習・部活動および課外活動において、意欲的かつ主体的に取り組むことを目指す。 ③生徒が高い志のもと主体的に進路を選択できる力を醸成し、個々の生徒の進路実現を図る。 ④教職員が互いを認め合い、高め合うことができる働きやすい職場づくりを目指す。 ⑤教職員の1ヶ月の時間外在校等時間を45時間以内とし、働き方改革を進める。
------------	--

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目				最終評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標（数値目標）	具体的取組	達成度（評価）	実施結果
●学力の向上	○自発的学習習慣の定着と宅習の充実	○進路希望の確定率100%を達成する。 ○家庭学習時間3時間以上を確保する。 ○3点固定（起床・就寝・学習開始時間）を確立する。	・Classiで家庭学習時間を把握し、適切に指導を行う。 ・学習指導をとおして、予習→授業→復習のサイクルの確立を図る。	B	・予習→授業→復習の学習のサイクルを身につけている生徒は多いが、1、2年生で、家庭学習時間が十分ではないと感じている生徒が半数弱。また、生徒と保護者との認識の乖離もある。今後引き続き家庭学習時間を確保していくことが課題ではあるが、自発的に取り組む姿勢をもつ自律した致遠館生を育成することが必要である。
	○基礎学力の向上と応用力の向上	○授業を通して学力が向上したと感じる生徒90%以上。	・基礎学力の定着を図る小テストや定期考査への計画的な学習指導の実施。 ・授業アンケート等とおして生徒の学習意欲の確認。 ・展開授業や少人数授業で個々に応じた指導を行う。 ・定期考査前に学習会を実施する。	A	・概ね授業や定期考査に積極的に取り組んでいる生徒が大半を占めるが、一部そうでない生徒がいる。意欲的に学ぶため、授業の工夫が必要。 ・定期考査前に各学年が学習会を実施した結果、考査に向けて計画的な学習ができる生徒が増え、成績向上の意欲が高まった。 ・各教科の欠点保持者に対して、退試や進路指導を各学期内に行い、全ての生徒に対して基礎学力を向上を図ることができた。 ・志望大学に応じた少人数指導を通じて、超難関大学志望者が今まで以上に学習意欲が高まり、応用力の養成を図ることができた。 ・授業を通して学力を向上させた生徒も90%を超えた。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学年や個人でのボランティア活動への参加率100%を達成する。 ○図書室の貸出冊数を一人20冊以上にする。	・読書を通じ、様々な生き方や感情を知り、自他を受け入れられる豊かな心を育てる。 ・主権者教育に係る講演会を実施し、社会を構成する一員であるという意識を醸成する。 ・日々の交通指導、挨拶指導、清掃活動をおして、公共心を養う。	B	・全学年ボランティア活動として清掃活動を実施し、公共心を育成することができた。また可能な範囲で個別にボランティア活動に参加する生徒も多かったが、コロナ禍もあり100%には達しなかった。 ・1学期は交通事故の件数が多かったが、日々の交通指導、HRや終業式・始業式などの指導により、交通マナーが向上し、2学期以降の事故件数を減らすことができた。 ・日々の交通、挨拶指導、清掃活動を通して、他者への思いやりや社会性を考えさせることができた。 ・高校は高校3年生の学習室としての利用が多かったが、目標の貸出し冊数は達成したなかった。 ・主権者教育については、動画研修を実施した。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ問題の解消率100%を達成する。	・アンケート(年2回)の実施。 ・週1回の生徒指導部会をおして、生徒の実態を継続的に把握する。 ・問題が発生した場合は、迅速に会議を開き、組織的に対応する。	A	・アンケートや担任からの情報を生徒指導部会や教育相談で共有し、できるだけ早い段階で、いじめの事前の防止に取り組んだ。 ・問題発生時には、管理職、生徒指導、教育相談、該当学年、該当活動等と迅速に連携し、組織的に対応することができ、解消率はほぼ100%であった。
	○人権・同和教育の推進	○人権・同和教育に対して主体的に理解しようとする生徒、教職員を100%とし、問題に対する意識向上を図る。	・人権・同和教育に係るホームルーム活動を学年ごとにテーマを設定し行う。 ・教職員及び生徒を対象とした人権・同和教育に係る講演会を実施する。	A	・ホームルーム活動は「言葉の重み」「ホームルームセッション」「進路保障」をテーマに実施した。 ・講演会の代わりとして各クラスで動画による研修を実施した。(コロナ禍での人権保障) ・人権・同和教育に係る職員研修を4回実施した。
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	○朝食喫食率100%。 ○特に受験期における飲食物摂取の過多・過少な気を配り、自ら食生活を管理できる態度を養う。 ●「健康に食事は大切である」と考える生徒100%。	・保健だよりに朝食の大切さを掲載し、生徒の意識を高める。 ・個々の生徒について、職員間で情報交換を行い、必要に応じて生徒や保護者に対し相談・アドバイスを行う。	A	・保健だよりを毎月発行した。今年度はコロナ予防策について、あらゆる視点から掲載したが、栄養を摂り、抵抗力を上げる視点からも食事の重要性について掲載した。 ・高校2年生223名を対象に、食事の重要性についてのアンケートを取ったが、222名の99.6%が大切だと感じている。養護教諭による生徒のアドバイスもあり食生活のバランスを崩した生徒はいなかった。
	○部活動(社会体育を含む)や課外活動への意欲的な参加	○部活動(社会体育を含む)への加入率を90%以上にする。 ○部活動計画に基づく休養日の実施率を100%にする。	・部活動紹介のパンフレットを作成し、部活動体験入部期間を設け、加入を促す。 ・ボランティア等の課外活動への参加を促す。 ・年間部活動計画を策定し、保護者や生徒にもHP等を通じて周知する。 ・部活動休養日を計画的に設定する。	A	・コロナ禍の影響で、集形式での部活動紹介ができなかったが、部活動紹介のパンフレットの作成や部活動体験入部期間を設けるなどした結果、全生徒数の40.1%が文化部に加入し、63.1%が運動部に加入している。参加している生徒も多く、部活動加入者(全生徒数)は103%となる。 ・ボランティアについては今年度は校内の活動が主であったが積極的に活動していた。 ・部活動の休養日は適切に設定されていた。実施率もほぼ100%であった。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・週1日は定時退勤日を設定する。 ・業務記録を各週ごとに確認し、職員の時間外在校等時間の自己管理を徹底する。 ・メール等を活用した会議を促進し、業務の効率化を図る。 ・部活動指導は年間計画に基づき、休養日を適切に設定する。	A	・週1回の定時退勤日を設定し、定時退勤を促すことができた。 ・日報や職員会議、朝礼を利用して職員の時間外在校時間の自己管理を促し、結果として月ごとおよび2～8ヶ月平均値も大幅に改善された。・会議の縮減も行われた。
	○教職員間の信頼・連携の強化と働きやすい職場づくり	○「働きやすい職場である」と考える職員が90%以上。	・職員アンケート(年1回)の実施。 ・ハラスメント研修(年3回)の実施。 ・月1回のゼロの日を設定し、教育公務員としての自覚を再確認する。 ・校内での職員の相談体制の周知徹底。 ・衛生委員会の充実。	A	・職員アンケートの結果、働き方改革への取り組みはまだ必要である。 ・ハラスメント研修も各学期ごとに実施することができた。 ・月1回のゼロの日の設定で教育公務員としての自覚を促すことができた。 ・衛生委員会を毎月開催し、活発な意見が出たことでよりよい学校づくりの一助となった。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標（数値目標）	具体的取組	達成度（評価）	実施結果
○教育の質の向上	○授業改善の推進・徹底 ○ICT利活用教育の推進 ○大学入試を見据えた指導	○意欲的、主体的に生徒が取り組めるよう授業改善を進めた教員100%。 ○ICT利活用教育に取り組んだ教員100%。 ○大学入試を見据えた授業改善を行う。	・学期に1回お互いの授業を参観し、指導力の向上を図る。 ・ICTを活用した授業を実施する。 ・入試問題の分析をし、それを踏まえた校内テストの作問を行う。 ・生徒による授業評価を実施し、その結果に基づいて、授業の改善を図る。	A	・オンライン授業実施の準備を通して、ICTを活用した教材の研究や指導法を各教科の枠を超えて、お互いに学び合うことができ、授業改善への取り組みもICT利活用教育への取り組みも100%であった。 ・生徒による授業評価の結果や研究授業実施後の合評会で反省点を踏まえ、各教科内で授業改善を行い、大学入試(思考力・判断力・表現力)を見据えた教科指導力の向上を図ることができた。
◎志を高める教育	○SSH事業の活用 ○主体的行動と自律心の養成	○課題研究・探究活動で、実験や調査等での失敗をもとに教訓を作り、主体的に学びに活用した経験のある生徒を80%以上にする。	・課題研究・探究活動で、観点「失敗から学ぶ力」を含むルーブリックを活用して学習指導に取り組む。	B	・課題研究・探究活動で、実験や調査等での失敗をもとに教訓を作り、主体的に学びに活用した経験のある生徒が、高校3年50.8%、高校2年24.7%、高校1年27.8%と、目標の80%には達しなかった。今後の学習指導の改善に向けて、経験を活用して自ら学ぶ本校生徒の実態を明らかにすることができた。
○普通科教育の充実 ○理数科教育の充実	○国際的な視野と高いコミュニケーション能力の育成 ○科学技術の発展や情報化社会に寄与できる人材の育成	○英語の外部検定試験を受験する生徒100%、英検2級取得率80%を目指す。 ○学習用PC等のICTツールを使い、自らの考えをまとめ、プレゼンテーションできる生徒を100%にする。	・全職員が共通理解のもと、生徒に主体的な学びや学問の深さについて啓発する。 ・普通科1年生と2年生でそれぞれ探究活動を行い、発表会を実施する。 ・理数科2年生で課題研究を行い、中間発表会及び発表会を実施する。	A	・理数科は1/28に課題研究発表会を実施し、生徒のプレゼンテーション能力を高め、専門家からのアドバイスを受けた。 ・普通科はグループ毎のテーマ協議を重ね、発表会を実施し、全員プレゼンテーションができた。 ・英語の外部検定試験を受験する生徒はG-tacなど100%達成した。英検2級取得率については希望者受験であったこともあり、高校3年生で54%であった。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育目標に基づいた本年度の重点目標は概ね達成できているといえる。 ・次年度に向けて、本年の取組をさらに深化させ、「知・徳・体」の充実に向けた教育活動を展開していきたい。 ・本年度の課題を精査し、各種業務を精選・改善することで、行き届いた教育活動につなげたい。また、働きやすい職場づくりや働き方改革を推進する。
----------------	--